

平成20年度 第39回千葉県中学校バスケットボール新人大会 総評

千葉県小中学校体育連盟主催、千葉日報社他後援の第39回千葉県中学校バスケットボール新人体育大会は11月2日(日)、8日(土)、9日(日)の3日間、柏市の柏中央体育館をメイン会場に、柏市沼南体育館、鎌ヶ谷市民体育館、野田市総合公園体育館の各会場で行われた。

男子のベスト4にはシード校が順調に勝ち上がり、準決勝は習志野五中(習志野)対塩浜中(市川・浦安)と、船橋中(船橋)対大和田中(八千代)の対戦カードとなった。そして決勝では、2年連続の優勝を狙う習志野五中と小柄ながらも抜群のシュート力を持つ船橋中が対決することとなった。試合は習志野五中が第1ピリオドに3ポイントを4本決め、リードを奪ってスタートする。対する船橋中は巧みなドリブルワークやパスワークでオフェンスのリズムを作り出す。決勝戦にふさわしく、両チームとも素早いトラジッションで見応えのあるゲームが展開される。船橋中は後半になっても正確なシュートが小刻みに決まり、粘る習志野五中を引き離し、10年ぶりに県新人戦を制覇した。

一方女子の準決勝の組み合わせは第一シードの昭和学院中(市川・浦安)対開催地区代表の野田南部中(葛北)と、ノーシードながらも粘り強いディフェンスで勝ち上がってきた市川四中(市川・浦安)対第二シードの畑沢中(木更津・袖ヶ浦)の対戦カードとなった。そして決勝には、夏の全国大会を制覇し2年連続で県新人戦の制覇を狙う昭和学院中と、初優勝を狙う畑沢中が進出した。試合は堅実なディフェンスで相手にシュートチャンスを作らせない昭和学院中がインサイド・アウトサイドのバランスの良いオフェンスで得点を伸ばす。それに対し畑沢中は速攻やドライブインで対抗する。昭和学院中のリードで試合は進むが、後半になり畑沢中がターンオーバーから加点し、一進一退の攻防となり、延長戦にもつれ込む。一本一本のシュートに会場全体が歓声やため息をもらす緊張感あるゲームが展開されたが、最後には女王の意地を見せた昭和学院中が逃げ切り2年連続12回目の優勝を果たした。

今大会では男女とも一回戦から接戦が多く、白熱した試合が繰り広げられていた。次の県大会は春の選手権大会となるが、冬の間各チームの成長に期待したい。

最後になりましたが、TO指導や会場準備など、開催地区である柏・葛南・葛北地区の役員や関係者、そして駐車場の整理をしていただいたボランティアの方々など多くの皆様のご尽力により大会を無事終えることができました。心よりご協力に対し感謝いたします。

文責 県中体連バスケットボール専門部

報道部 大橋 哲治(平川中)